



全体討論に向けて : 論点整理

坂江, 渉

(Citation)

歴史文化をめぐる地域連携協議会予稿集, 13:39-39

(Issue Date)

2015-01-31

(Resource Type)

conference object

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81008752>



「全体討論に向けて -論点整理- 」

2015年1月31日 坂江 渉（神戸大学）

▼地域連携センターの13年間におよぶ活動

- ・一部の前進はみられるものの、その中で出くわし、未だ解決できない課題がたくさんある／→第2部報告の板垣・井上・前田各氏の経験／わたし自身にもある／
- ・「よそ者である我々がやって来たことは果たして理解されているのか」「活動の理念やスタンスは知られているのか」という問い／過去の協議会参加者：「いわゆる成功例だけでなく、困難な事例や失敗例も議論したらどうか」という感想（複数）

一、活動そのものへの評価

▼全国の歴史系の大学のなかで、センターの取り組みはかなり異質な存在／机上の学術研究だけでなく、研究者が社会の中に入り込み（フィールドをもつ）、地域社会が抱える問題の解決を試みようという例は稀／

（cf）歴史関係の市民向け公開講座／古文書講座を開講している大学はたくさんある

▼歴史資料などの地域歴史遺産を、「まちづくり」や「地域再生」に結びつけ、それを継続的、組織的に支援する取り組みをしている大学はない

- ①非常勤職員ではあるものの、古代～近代の専門スタッフ→連携フィールドを持つ。
- ②将来の地域歴史遺産の担い手の育成をめざす学生教育プログラムの確立／「地域歴史遺産保全活用基礎論 AB」「地域歴史遺産活用演習」（2006年以来）→40～41頁参照。
- ③市民向けの「まちづくり地域歴史遺産活用講座」の開催（年2回）
- ④まちづくりのための『地域歴史遺産活用ハンドブック』の刊行（2013年）
- ⑤従来の古文書学や史料論とは異なる「地域資料学」を構築する努力・・・

↓

▼他大学の関係者の声「大学の研究者がそこまでやる必要はない」／「神戸大はやり過ぎ」 ・改めて協議会参加者の評価や声をお聞きしたい

二、人と人とを結びつける「核」となる歴史遺産（歴史資料）をめぐる困難な状況を乗り越えるために具体的にどうすれば良いか

▼現場で出くわす困難な状況

- 歴史遺産（歴史資料）にもとづき、地域文化の多様性、重層性を引き出していくのではなく、それを「一面的」に理解したり、「商業主義」に陥りやすい傾向→「河童像」（井上報告）／「顕彰」「ゆるキャラ」（前田報告）／「郷土の誇り」／そのほか「地域アイデンティティの再建」／「〇〇のまち××市」などという言葉・・・etc
- 歴史遺産（歴史資料）を外部に公開して行くのではなく、特定の人たちが、排他的に「囲い込む」ことを見かけることもあった。

↓

▼実際の連携現場で必要となる「ルール」はなにか

- ①地域史の多様性、重層性をつねに視野に入れた歴史遺産の掘り起こし
- ②歴史遺産に関与する主体（官学民の3者）が、歴史を考え語る「公共圏」（閉鎖的な地域主義ではない）を構築することの重要性
- ③3つの主体が相互の立場を尊重し、それぞれの役割を發揮していくこと
- ④史料の保全・継承も意識しつつ、つねに科学的で合理的な史料解釈を基本とすること